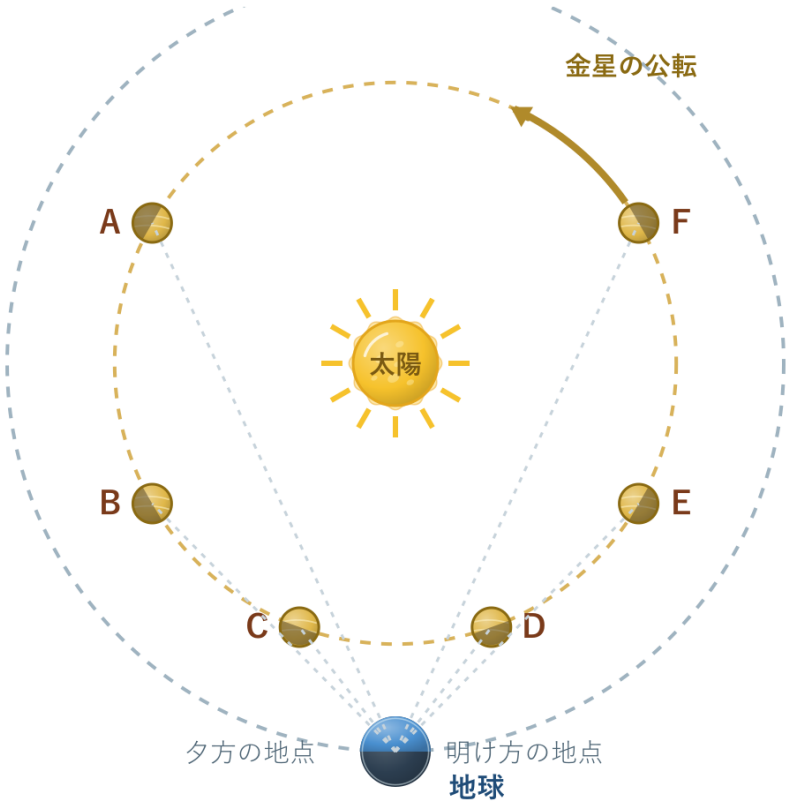
金星の満ち欠けと見え方

金星の形と大きさは、なぜ変わって見えるのか

北極側の上から見た図

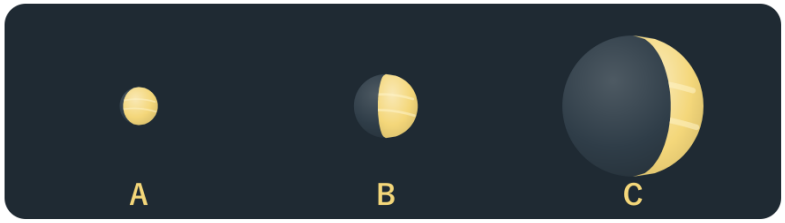


← 夕方、西の空に見える（A〜C）　　**明け方、東の空に見える（D〜F）→**

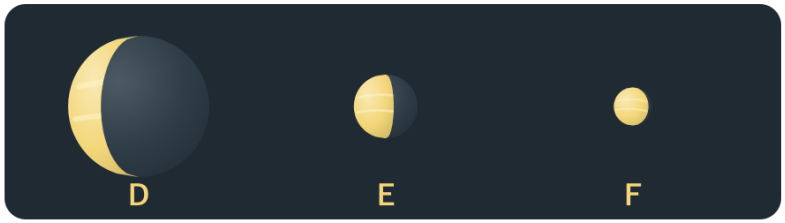
金星は地球の内側を公転するので、真夜中には見えない。

地球から見た形と大きさ（肉眼の向き）

よいの明星（夕方、西の空）：右側が光る



明けの明星（明け方、東の空）：左側が光る



地球に近いほど大きく見え、大きく欠ける。
地球から遠いほど小さく見え、丸に近づく。

C→D のころは太陽と同じ方向にあり、見えない。
大きさは地球からの距離から計算した比。
望遠鏡では、上下左右が逆に見えることがある。

※ 軌道は円とし、金星の公転の半径を地球の0.72倍として位置と形を計算した。太陽や惑星の大きさは実際の比ではない。